

越中福岡の菅笠製作技術保存会通信

2013年1月

No. 13

頌春 (会長あいさつ)

越中福岡の菅笠製作技術保存会

会長 木村 昭二

皆様には新しい年を迎えられて益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私達、越中福岡の菅笠製作技術も着実に進展し、より世間に知られるようになり、昨年は秋田県鹿市からも視察がありました。

また、大坂市深江からは直径168センチの大笠に使うスゲの注文があり、今年の大河ドラマ「八重の桜」でも会津藩の武士行列に、尺七寸の一文字笠、足軽には尺二寸の一文字笠が使われ、他にも浅山の笠が映っております。

その他の時代劇にも多数使われ、全国の菅笠の九割を生産するといわれている福岡の産業がより栄えますよう更なる発展を心よりお祈り申し上げます。



▲竹の香りに包まれた作業所。さりげない指先の動きの中にずっしりとした伝統の重みがある。

福岡町つくりもんまつり

9月23日(日)・24日(月)、福岡観光物産館(丁R福岡駅コンコース)で菅笠12種を展示しました。また、菅の香り袋200個を配付し、菅の消臭・除菌効果を知ってもらいました。

まなびっこフェスティバル

10月6日(土)、高岡市二上まなび交流館で、まなびっこフェスティバルが開催され、保存会からは菅笠づくり体験教室の講師7名が参加しました。子供達や保護者に豆笠づくりや菅細工の花瓶敷き・コースターづくりを指導しました。



▲つくりもんまつりでは、様々な菅笠が展示される。



▲豆笠づくりを難しいが楽しむまなびっこたち。

試作品に挑戦

9月10日(月)、木村会長ほか笠縫者3名が高橋市長へ菅製野球帽の試作品の報告を行いました。木村会長が竹骨で野球帽の形を作り、笠縫者が管を縫い付けました。

ひさし部分の曲線をいかにするかで苦労されていました。



▲菅製野球帽の試作品。

菅細工花器の製作

上野秀夫(東京都)さんが発案した鼓形の菅細工花器の製作依頼が上野さんから保存会にありました。木村会長・笠縫者赤尾さんほか2名が挑戦し、10月上旬に完成しました。完成品の1つは福岡庁舎に寄付され、1階菅笠コーナーに展示されております。



▲洋遊会使用の巻鼓(雅楽器)の形を生かした「福岡菅巻鼓型花器」



スゲ田をまもる

「昨年」の豪雨災害での被害」

越中福岡の菅笠製作技術は、平成21年に国の重要無形民俗文化財指定を受けましたが、現状は菅田栽培や製作技術者が減少の一途をたどっています。そんな中、追い討ちをかけるように昨年は豪雨により、菅田が被害に遭いました。菅田の法面（土手）崩落や山腹崩落による水路崩壊、菅田に土砂が流入するなど、耕作者はすっかり耕作意欲をなくしてしまいました。しかし、災害復旧工事の早期着手やボランティアによる土砂排出支援などにより、秋の作付けができるようになりまし。今後とも保存会では皆さんと技術の保存と継承に向けて必要な対策を講じていきます。

▲用水路が復旧し9月に作付けされた菅田

▲土砂が流入した菅田

▲ボランティアが土砂排出

菅巳教室

12月15日(土)、菅細工「干支 菅巳づくり教室」をとやま・ふくおか家族旅行村(山ぼうし)で行いました。講師等14人が参加し、各自が工夫した菅巳は、それぞれ味わい深くできあがりしました。1月は山ぼうしの各部屋に菅巳が展示され、皆様をお迎えしております。

菅バケツ栽培体験

10月12日(金)、福岡小学校においての菅バケツ栽培が行われました。5年生の子供達はバケツに水を足し、土とよく混ぜて菅苗を斜めに植付けました。約10か月後、背丈より大きく伸びる菅草の成長を楽しみにしています。



▲完成しました！干支「菅巳」。今年も良い年になりますように祈ります。



▲保存会員に教わりながらも悪戦苦闘(菅バケツ栽培)。



菅笠製作取材

KNBテレビ(1月放映、歴史都市高岡)で、越中福岡の菅笠づくりが放送されています。西五位地区の菅田づくりや笠縫いの様子が紹介されます。

◇放送時間は、1月29日(火)・31日(木)午前零時53分(夜間の放送です)

◇DVDの貸出を行っています。申込は地域振興課 ☎645333へ。

ものづくりデザイン科

11月2日(金)、福岡小学校6年生による菅細工コースターづくりを行いました。福岡小学校では、地域の子供たちに「菅笠づくり」の面白さを伝え、将来の担い手を育成する仕組みの1つとしてものづくり体験教室を行います。地域の産業・文化に触れる機会を設けています。



■菅草の研修会 参加しよう！
 とき 2月23日(土)午後2時~3時30分
 ところ 福岡観光物産館
 演題 スゲ植物を利用した地域活性化
 講師 岡山理科大学 星野卓二教授